評

◎寫眞例題集　第二十八卷

大阪心齋橋通　桑田商會發行

コロタイプ寫眞版十葉　三十錢

寫眞版として成功せるは他に類なく挿入の印畫の鮮麗にして位置の面白きは感服、就中滿つ潮、早瀨の二點は極めて繪畫的にして畫家にとりても好參考品なるべし。

◎笑の國

巖谷小波作

日本橋本町　博文館發行

四六形三七二頁　六十錢

短篇、狂言、小話と附錄に喜劇が一幕、內容は表題の通りで、休暇の友と冒頭にあるが、いつ讀んでも面白い本だ。思案外史曰く『此書世界の人々に可笑がられるのは、僕の疑を挾み得ぬ處で、これを疑ふものが假令一匹たりとも半分たりともあつた曉には、只從來暴威を揮つた例の櫟を嬉し喜ぶ大俗輩で、到底手を携へて笑の國を逍遙する事は出來ないんだ』云々

■　■　■

□青梅に於て開會致候本會第一回水彩畫講習會は、極めて良好の結果を得、講師も講習生も、多大の滿足を以て三週間を過し申候

□同會の景況は、出席者及成蹟品の寫眞と共に、精しく次號に登載可致候。

□柄次號は挿繪には三宅克己氏の關宿のスケッチ、河合新藏氏の山路、石川欽一郎氏のペン畫等を面なる者とし、記事は丸山晩霞氏の水彩畫講話緣の研究、大下藤次郎氏の初學者の繪、石川欽一郎氏の會津紀行談、三宅克己氏の利根川廻り續稿等を出すべく候。

□大橋正堯氏は、今回の夏期講習會に於て大に盡力被致候が、猶吾々と志を同ふせられ幹部の一人として將來斯道に對し、大に貢獻せらるべく候。

□前號會員名簿中、贊助會員森榮一郎とあるは、森榮一の誤りに付、爰に訂正致置候。

□正會員の認諾を受くるため、提出せられし作品は、及第の上は本會に保存すべく、返戻の需に應じ不申候。

□會員にして作品の批評添削を求めらるゝものゝうち、往々模寫と思はるゝもの有之候、右は必ず原圖を添えられたく、然らざるものは不得止其儘返却可致候。

□競技會出品の繪葉書中に、郵便切手を入れて、開き封にて送らるゝ方有之、右は第一種として、不足稅を徵收被致候間、御注意あり度候。

□競技會々費は、數月分一時に御送付相成候も差支無之候

□兼て屢々申置候通り、右出品繪葉書は、敢て數の多きを望まず、又出品者の多きも望まず、眞面目の考にて製作せられしものを少數にても歡迎致すべく候。

□佳作を御出品になれば、自然夫に應じたるよきもの交換返送致さるべく候。爾來枚數の制限を越えしもの、なぐり描き、洒落がき、及び甚しき拙劣なるものは、徒らに手數を要するのみにて、自他共何等の利益も無之候間、其儘御返却可申上候。

□課題の意匠と技術を混同せらるゝ人あり、其作如何に精巧にても夫等は入選を得がたく候間御注意あり度、時々卷尾の規定を御覽下され度候。